

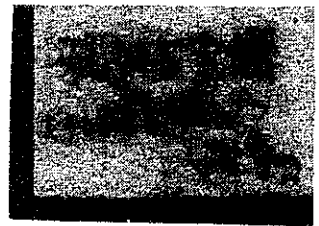
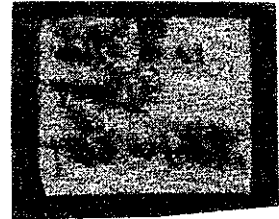
轍わだち

2011, 4, 19 NO 7

支援物資ありがとう！

昨日放課後、たくさんの消しゴム〈スーパーの袋半分くらい〉を
中学3年生の さん さん さん さんが持ってきて
くれました。」なんと1個ずつにメッセージを入れて！

中学2年の兵庫さんは、「お兄さんの学校にちらしを持って行けます」
と言いに来てくれました。髪ゴムも頂きました

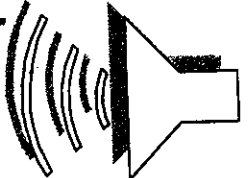


新聞社に30日企画の報道のお願いに行きました

3班に分かれて、新聞社を訪問しました。

高校2年 さんはじめ中学生組は京都新聞社
高校3年実行委員長組は、読売新聞社で取材快諾
副委員長組は朝日新聞社へ

オリジナルタオル作成します。
500円で買っていただいたら
売り上げ金を支援金にします

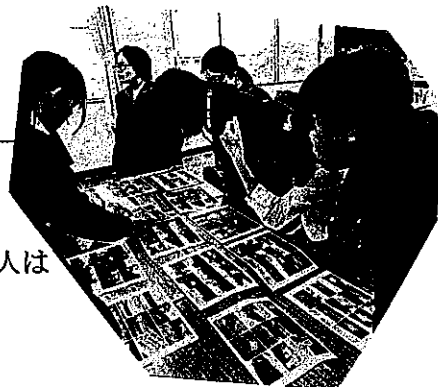


被災地：陸前高田の現状報告 その2

気仙沼から北へ行くと「陸前高田」です。
 ここは平地が災いして市全域が破壊でした。
 気仙沼のように高台がないため、川が津浪を
 運び町全体を飲み込んだのです。見渡す限り
 一面何もない平地が広がっていました。ずい
 ぶん大きな橋が架かっていたのでしょう。
 大きな大きな橋桁だけが残っていました。
 「これは原爆投下直後のヒロシマの風景」
 だと思いました。建造物は跡形もなく…
 人も犬や猫たちもあらゆる命が消えた…
 この町の再建はどこから手をつけられるの
 だろう。呆然と立ちつくす私であった。



17日午前9時頃の陸前高田
写真中央に橋桁が残っている



一連日フル回転の実行委員会—
チラシの配布は明日です。

「チラシの配布に協力できる」と言ってくれた人は
明日の昼休みに学習室に集合して下さい。
ちらしを渡します。実行委員求む！

現地の様子の
写真を見ながら
仕事に励む実行
委員達です

昨日紹介した先輩の所有していた愛車
あの日、仙台に用事があり、気仙沼駅前
に駐車して被災した。発見したときはビ
ルの2階に食い込んでいたという。その
後見に行くと地面におろされていた



<4月16日付 三陸新報>

記憶 後世へ



今朝NEWSで、「被災地の給食が開始された」と伝えていた。「牛乳とパンだけ。」それでも子ども達は大喜び「画面に子どももの笑顔映しだされた。被災地以外では以前として飽食や賞味期限切れの廃棄食品が大量。避難所では未だに朝食支給はなく1日2食だと聞いた言葉と重なりやりきれない気持ちになる。

粥分け合って一夜

小野寺 徹 (下)

志津川中学校は、流れてきたがれきが登校坂に堆積して出

12日に卒業式を行う予定だった体育館。毛布の備蓄はななく、着のみ着のままの避難者は館内に張られていた紅白幕を外して体に巻き付け、寒さをしのいだ。

「体育館は天井が高く保温性がなくて教室に移動した暗だからそう見えた

めにも周囲に積もっていた雪をバケツに詰めていた。大人たちも長丁場を覚悟し、学校裏の山道から徒歩で飲料水を運び込んだ。



大津波から一夜が明けた志津川。建物はほとんど残っていない (3月12日午前7時ごろ)

入りできなくなったため、孤立した。校内には、生徒と避難者合わせて約800人。停電で温風ヒーターが使えず、教舎の石油ストーブが唯一の暖房。屋内でも凍てつく寒さだった。

方がい。居合わせた町職員が機転をきかせ、みんなを教室に移動させた。

夕食は、学校にあつたわずかな米をストーブの上で炊いて粥を作り、紙コップに分けて食べた。一口分しかなかった

ふと見ると、中学生が水を確保するた

持っていた。「助かった」。そう感じた瞬間だった。

無事が確認できてない」と聞かされた。志津川中学校に逃げた。40〜50人いたはずだが、防災対策庁舎屋上の鉄塔によじ登った10人ほどしか

東日本大震災の証言

平成23年3月11日午後2時46分